木造たいしん授業

岩城四

十月十八日の三時間目と四時間目に木造たいしんの授業がありました。愛媛県庁からわざわざ二名の方が岩城小まで来てくださいました。わたしは、授業を受ける前は、木造たいしんって何のことだろうと疑問に思っていて、早く勉強したいと思っていました。

まず、三時間目に、木造たいしんについてと過去に起こった地震の数や大きさ、ひ害について教えてもらいました。木造たいしんとは、木で作られた建物が地しんのゆれでたおれたり、こわれたりしないことです。木造の住宅の中でも、昭和五十六年より前に建てられた家はたいしん性が弱いそうです。家に帰っておじいちゃんに聞いてみると、わたしが今住んでいる家は、昭和五十六年よりも後に建てられたということが分かりました。たいしん性は弱くはないけど、地しんの時は油断できないなと思いました。

次は、地しんについてです。愛媛県には、とても大きな地しんがくると予想されています。南海トラフ巨大地しんと呼ばれるものです。地しんが起こる前から名前がつけられているなんて考えられません。その地震は近い未来に必ずくるんだなあとこわくなりました。私たちの住んでいる上島町は、しん度六強のゆれを観測されるといわれているんだそうです。この地しんによる愛媛県の予想死者数は、季節によってちがいますが、一万六千人とも五万五千人ともいわれているそうです。私たちがこうやって防災の学習をしているのは、もしもの時のために少しでも被害を少なくするため、なくなる人を少しでもへらすためだと思いました。その時に、冷静に自分の命、家族の命、地域の人の命を守るために勉強をしていきます。

過去に起きた大きな地震を三つしょうかいしてもらいました。その中でも特に心に残ったのは、平成七年一月に起こった「阪神あわ路大しん災」です。震度七の大きな地しんでした。ひ害にあわれて、なくなられた人の原因の八割が、建物のとうかいでした。つまり、こわれた建物の下じきになり、身動きがとれずになくなったのです。そのこわれた住宅や建物は、昭和五十六年より前に建てられた物が多かったということです。このことからも、建物のたいしんはとても大切だと思いました。

四時間目は、工作・実験をして、昭和五十六年までに建てられた古い家と新しい家の構造のちがいをたしかめました。実験をすると、たいしん化することがどんなに大事なことかよく分かりました。また、たいしん化されていない住宅をたいしんさせる技術があるということも知り、安心しました。

この学習を通して、災害を前もって防ぐことも大事だということが分かり、家に帰って早速家族にこのことを話しました。たいしん化は、自分の力だけではどうすることもできないので、学習したことを家族に話すことが防災につながると思いました。これからも学習していきたいです。

※　木造たいしん授業を通して、学んだことを分かりやすくまとめることができています。家族に伝えるという自分にできる防災を考え、実行しているところがとてもよいですね。